

第 2 問

設問A→赤色

設問B→水色

次の(1)~(3)の文章を読んで、下記の設問A・Bに答えなさい。解答は、解答用紙(口)の欄に、設問ごとに改行し、設問の記号を付して記入しなさい。

- (1) 1235年、隠岐に流されていた後鳥羽上皇の帰京を望む声が朝廷で高まったことをうけ、当時の朝廷を主導していた九条道家は鎌倉幕府に後鳥羽上皇の帰京を提案したが、幕府は拒否した。

朝廷の「提案」を幕府が拒否

↓
幕府が朝廷より優位に立っている

- (2) 後嵯峨上皇は、後深草上皇と亀山天皇のどちらが次に院政を行うか決めなかった。そのため、後嵯峨上皇の没後、天皇家は持明院統と大覚寺統に分かれた。

※系図に関連する、両統迭立の説明

- (3) 持明院統と大覚寺統からはしばしば鎌倉に使者が派遣され、その様子は「競馬のごとし」と言われた。

幕府

朝廷より優位の幕府に皇位継承を支援してもらおうとした

→ 両統競うように使者を派遣

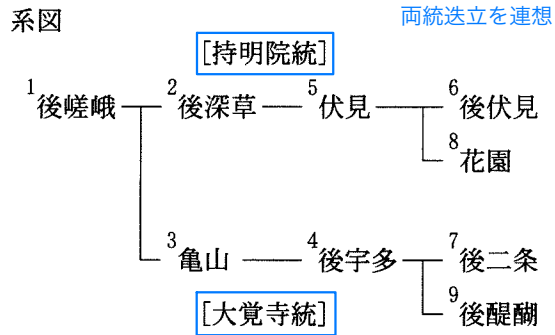
設 問

承久の乱という語句を明示するように

- A 後鳥羽上皇が隠岐に流される原因となった事件について、その事件がその後
の朝廷と幕府の関係に与えた影響にもふれつつ、2行以内で説明しなさい。

東大の日本史では、しばしば特定の語句を遠回しに答えるよう促す問題があるほとんどの場合、簡単なので、しっかりと意図を汲んで答えられるようにしたい

B 持明院統と大覚寺統の双方から鎌倉に使者が派遣されたのはなぜか。 次の系図を参考に、朝廷の側の事情、およびAの事件以後の朝廷と幕府の関係に留意して、3行以内で述べなさい。



* 数字は天皇に即位した順

系図を参考にすることを忘れることなく